

第 22 号

2007年12月 1 日

○発行
鳥取市立川町 5 丁目417番地
鳥取こども学園後援会
電話 (0857) 22-4206

○振込口座
郵便振替 01490-9-9106
題字 尾崎悌之助

鳥取こども学園 学園だより



自己評価への取り組み

鳥取こども学園 希望館 館長 竹本 芳宏

朝晩めつきり寒くなりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。早いもので私が鳥取こども学園にお世話になってから一年半が経過しました。

この間、学園は昨年創立百周年を迎え、乳児部の新設を中心とする記念事業を滞りなく実施し、本年百一年が経過しようとしております。日頃から後援会員の方をはじめ多くの方にご援助をいただいておりますことに、紙面をお借りして改めて感謝を申し上げます。

さて、近年福祉施設におけるサービスの質と透明性が問題にされ、

第三者による評価の必要性が叫ばれていますが、学園においても、本年度児童養護施設、情短施設、乳児院について第三者評価を受けることとし、九月から自己評価に取り組みました。組織的な検討を経て自己評価票を取りまとめ、先般関係書類を添えて評価機関に提出しましたが、今後、年内に評価機関による訪問調査が行われ、年度内にも結果が評価機関のホームページを通じて公表されることとなっております。

自己評価を実施してみて、評価というものの難しさを改めて感じております。それぞれの評価項目について、a実施している、b実施しているが十分でない、c実施

していない、の三段階に自己評価するのですが、各項目に評価のガイドラインと評価のポイント及び着眼点があるとはいうものの、どこまでできていれば十分なのか判断に迷う項目がかなりありました。

また、勤めている施設の種別によって職員の評価も随分違うということもわかりました。児童入所施設共通の評価項目が五十五項目ありますが、同一法人内の施設でありながら、同じ評価項目でも勤務している施設によって職員の評価にかなりの違いがありました。

情短施設について見ると、施設固有の項目が二十八ありますが、これまた職員によって、また管理者である私も随分評価が違う項目がかなりありました。

考えてみれば、十人十色でそれぞれの職員の評価が違うのは当たり前といえはそのとおりなのですが、同じ項目でも勤めている施設の種別によって相対的な職員の自己評価に無視できない開きがあるということは、観点を変えて言えば、職員自身の自己評価が働いている施設によって相対的になり違つということでもあり、管理者として考えさせられております。

いずれにしても、この度の自己評価を通じて当学園の誇れるところや弱点が改めて浮き彫りになったと感じており、今後公表される第三者機関の評価もそのなかから、自己評価で明らかとなった弱点を克服していくことが、当面の課題であると考えております。



法人本部

皆様のご支援のお陰で百一年目も無事終わるところです。感謝したい。

① 二〇〇七年は、朝日新聞鳥取版の元旦から一月六日まで五回にわたって連載された「百一年目の鳥取こども学園」という特集記事で幕を開けた。二十代、三十代、四十代、五十代の学園同窓生が記者のインタビューに応える形で学園と自分たちの人生を語っておられ、子どもたちや職員が多いに勇気づけられ、記事を読まれた多くの方から励ましの言葉をいただき、ご支援いただいた。感謝したい。

② 三月十七日には、尾崎倭子理事長が倒れられ、随分心配したが、二か月の入院治療で何事もなかったかのように元気に快復され、五月二十五日の梨花ホールでの「鳥取こども学園創立百周年チャリティコンサート」には、元気なお顔を拝見できた。井上恭子さん企画のこのピアノコンサートも感動的で、素晴らしいものだった。感謝したい。

③ 今年度の施設整備事業として計画した駐車場整備（百八十二万円）、全建物を含む自動火災報知装置の整備（二百七万円）、ホームへのパソコン整備（八十七万円）も完了した。エキスパートチャリティーアソシエーション様から自火報

装置及びパソコン整備分二百九十四万円の寄付金をいただいた。昨年に引き続きのエキスパートアライアンスの多くのエンジニアの皆様へ改めて感謝したい。

④ 十一月十二日朝、学園で一番高いメタセコイヤの大木に落雷があり、大木が裂け、自火報装置やエアコンの基盤が破壊された。メタセコイヤの大木は、風にあおられて裂け目が広がり乳児院の建物に被害が及びそうだったので、緊急に伐採した。エアコンと自火報修理に百七十七万六千円（保育所分二十七万三千円含む）、メタセコイヤ伐採に二十五万三千円かかったが、エアコンと自火報は損害保険の対象となる見込みである。

昨年九月にも落雷による自火報や電話への被害があり、異常気象によって雷が落ちやすくなっていると考えられ、今後の対策が必要である。

⑤ 十二月十六日、東京日比谷公園で行われる里親や施設の制度充実を求める集会やパレードの関係で、今年の学園クリスマス祝会は十二月九日に行われる。以下、各施設毎の報告にあるように、百一年目の鳥取こども学園も無事、新たな課題を持ちながら、二〇〇八年「百二年目」に引き継がれようとしている。お世話になった皆様からお礼を申し上げます。また、引き続きご支援賜りたい。

児童養護施設

鳥取こども学園

学園で生活している子どもたちの中から、日々生活していて感じたこと思ったことを作文にしてくれた子どもがいますのでご紹介します。

中2 K・S

私は、このホームにいて良かったなと思ったことや楽しいことがあります。まず一つ目は、ホームのみんなと家族みたいに過ごせることです。ホームにいると、自分の家にいるみたいで、とても心が和み安心できます。学校から疲れて帰ってきてもホームの人たちが「おかえり」と言ってくれると安心して疲れがとれます。だから私はホームに帰るのがとても楽しみです。

二つ目はたくさん妹や頼れるお姉ちゃんがいることです。本当の妹やお姉ちゃんではないけど、私にとっては大事な妹やお姉ちゃんです。私にとっての妹、私より小さい子は、時々うるさいと思うことがあるけれどとても癒されます。私にとってのお姉ちゃん、私より上の人は相談をすると私が欲しい言葉を言ってくれます。なので、とても頼りになります。もちろん私は、ホームの先生にとっても感

謝しています。悪いことをした時はきちんと叱ってくれる。叱られた時は嫌だなあと思うけど、自分のために言ってくれるのでありがたく感じます。頑張った時はきちんとほめてくれます。

小5 H・R

僕がスポ少で頑張っていることは、サッカーでキーパーをして守ることで、特に相手が近づいてきたときは、入りやすいけど、日曜日に止められたので、とても嬉しかったです。

小6 H・T

ぼくが一番楽しかったのは、八月四日に行った海水浴です。まず、みんなで海に入って泳いだり、もぐったりしました。岩場に行つて、かにをとったり、貝をとったりもしました。最後にパーベキューをしました。また来年も行きたいです。



乳 児 院
鳥 取 っ ち ゃ ん 学 園 乳 児 部

院 長 田 中 佳 代 子

乳 児 部 開 設 か ら 一 年 経 っ て

主 任 看 護 師 山 根 憲 恵

この一年間に二十五人以上の子ども達と関わってきました。子ども達も徐々に増え、問題点も次々にでてきました。

十月で開設一年を迎え、四季折々の養育・看護のあり方をひと通り確認しました。現在入所十三名、一時保護一名で、開設当初より、職員数も若干増えました。経験者と新任職員が半々の力量でスタートし、「子どもを主体とした心ある養育・担当制重視」に対する職員の意識統一や組織体制作りを努めています。

検討を重ねてもなかなか確立しない職員の勤務体制や養育体制を思うと、乳児院は特に、受入月齢や身体的・精神的発達段階、感染症の発生などによって大変な状態が刻々と変わり、各々の状態に応じた柔軟な対応が出来る力量を持たないと子ども達を守っていくことが出来ないと感じています。ボランティアのおばあちゃんにも助けていただきながら、職員一同取り組んでいるところです。



ボランティアの前田さん

愛着形成と家庭的な雰囲気作りを大切にする事が基本方針ですが、現状はなかなかついていきません。開設して半年経った頃は、一人の職員で七ヶ月未満の四人の乳児をみることもありました。おんぶして泣く子をあやしむながら、抱っこしてミルクを飲ませ、片足ずつでコンビにいる児を揺らして機嫌をとるといった難しい状況でした。愛着形成の大切なこの時期に、このままではこの子達に良い影響はないと痛感し、職員全員で話し合いをしてホーム体制の見直しも行いました。現在は一対一とまでいきませんが、ゆっくりと声かけする時間は多くとれるようになっていきます。

また看護師として子ども達の健康管理の面では、感染症対策がとても重要だと痛感しています。中でもウィルス性胃腸炎は一人が発症するとほとんど全員の子が感染してしまいます。五月に脱水を起こして二人の乳児が入院しました。日頃から子ども達としっかり関わって健康観察していくことが大切だとも思います。今後子ども達の命を守り笑顔を大切にしていこうとを目標に勤務していきます。

情 短 施 設
希 望 館

進 化 す る 希 望 館 を 目 指 し て

副 館 長 竹 内 保 江

希望館も今年で開設十四年目を迎えます。これまでに巣立って行った子どもたちも入・通所を併せると二百五十名にも上ります。彼らこそ、私たち職員集団の宝であり、知識・経験・力量不足の我々を今までに実によく鍛えてくれました。一人ひとりの顔、悪戦苦闘した日々のごとが昨日のことのように蘇ります。

彼らが残してくれた貴重な経験を生かし、今、ここで苦楽を共にしている子どもたちに少しでも質の高い養育や安全・安心を提供したいと願い、昨年度は職員全員で現状を徹底的に分析し、希望館の在り方と今後の方向性について何度も話し合いを重ねてきました。そのひとつとして、今年度からブロック体制という新しい体制を導入したことは、すでに前号の学園だよりでお知らせしたとおりです。

これは、これまでホーム体制(小舎制)だけをとってきた学園の歴史のなかでは初めての試みであり、より家庭に近い少人数での養育を理想としてきた在り方に逆行するようにも見えます。しかし、ホーム制の弱点としての不透明性が、希望館

の場合は子ども同志の陰湿ないじめの温床になったり、それぞれにむずかしい課題を背負った子どもとの関係を職員ひとりで抱え込み、疲弊していく事態が生じたりと、小舎制ゆえのさまざまな困難さにも直面してきました。

その解決策のひとつが、各ホームを全体的な視野から見て、支え統括する役割を担うブロック長の配置でした。これは、今のところとてもうまく機能しているようです。子どもたちにとって最も大切な存在である保護者との連携や、互いの心を繋いでいくための支援が以前に比べてキメ細やかにできるようになってきたと思います。また、退所した子どもたちへのアフターケアもより充実したものになっています。そして何よりも日々子どもと向き合い余裕を失いがちなホーム職員の精神的な支えとして大きな存在になりつつあると思っています。

今後の課題としては、入所時のインフォームド・コンセント、つまり「なぜ私はこの施設に入ることになったのか、何を課題にして頑張るのか、そしてそのためなどのようなケアをどのくらいの期間受けられるのか」などについての説明と同意を丁寧にしていくことが大切と考えています。そのことが後の彼らの成長や回復に大きく影響していくことを多くの体験から学んできたからです。

保育所

鳥取みどり園

実りの秋に感謝！

園長 入江 一枝

さわやかな空気、澄みきつた空、木々は日毎にその美しさを増す十一月。春には芽吹き、花が咲き、夏を楽しみ、秋には実を結ぶ。落葉の後、枯れ木のように見える木々に、やがて来る春の準備がなされています。自然界のほんの一部の変化も神さまのご計画の中にあり、豊かな季節に保育者の心が動き、気づき、感動しその営みに畏敬の念すら抱きます。幼い子どもたちの傍にいる大人の感性が、子どもを成長させるのだと信じます。深まりゆく秋を探しに出かける散歩は、いろいろな発見があります。ゆったり、たっぷり時間をとり、道中の出会いを楽しみながらの散歩は味わい深いものです。「今日は秋を探しに出かけましょう！」「それぞれが袋を持ち、園外に散つていく。靴下や服についた草の種も、木の葉の下で隠れている木の実も、虫も大切な宝物。自然の中で十分遊ぶことで、子ども自身が美しさを感じとり、より深く見よう、よりよく聞こうとするようになるのです。美しい自然に目をとめて心を動かし、秋の実りに神の恵みを覚えて、感

謝の心が育つような体験を重ねていききたいと思えます。



一人ひとりの心に寄り添って

主任保育士 栗本悦子

たんぽぽ組二十一名(二才児三名、一才児十八名)の子ども達は、今日も「おはよう」と声をかけると「おはよう」と応え抱きついてきます。あつたかく柔らかな体。保育者の指をキュッと握る小さな手。ニコリ笑いかけてくる笑顔。安心しきつた無邪気な寝顔。そんな姿を目にしたとき、「ああ、可愛いな。」と抱きしめたくなってきました。自然環境に恵まれた園舎周辺は、もう秋の気配が一杯です。少しずつ寒さに順応していけるように、暖かい日には出来るだけ戸外あそ

びや、散歩を心がけ健康な身体づくりを心がけています。落ち葉の上を歩きながら「あつ、カサカサって」と小さな足で、足ぶみをしてみせる子ども達。友だちと顔を見合わせる笑顔に瞳が輝いています。育児担当の保育の中で、一人ひとりの子ども達へ愛情を注ぎ、自分の心を安心していきり表現できるように愛着関係を築いていきたいと思えます。



鳥取みどり園行事

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 6月3日 | 鳥取みどり園バザー | 11月9日 | 焼きいも大会 |
| 8日 | 時の記念日(小谷時計店、高垣時計店見学) | 16日 | 園外保育(3歳児:真教寺公園・4・5歳児:若桜駅までSL見学に行く) |
| 10日 | 私立保育園保護者連合行事(ソフトバレーボール大会) | 21日 | 感謝祭&もちつき |
| 16日 | 参観日(保育参観、講演)
講師 田尻 光照氏
(大雲院住職) | 29日 | 6歳臼歯健康講座(5歳児) 講師 今田 哲哉氏 |
| 7月6日 | 七夕まつり | 29日 | 子育て支援センター「育児講座」講師 北山 洋子氏 |
| 10日 | プール開き | | |
| 19~20日 | 個別懇談会 | | |
| 26日 | 卒園生のつどい | | |
| 8月4日 | 納涼祭 | | |
| | | 28日 | プール納め |
| | | 9月9日 | 仕事会(保護者会主催) |
| | | 13日 | 風紋館デイサービス「敬老の日」のつどい」に出演(5歳児) |
| | | 14日 | 敬老の日のつどい
(祖父母との交流) |
| | | 29日 | 運動会 |
| | | 10月3日 | 交通安全教室(保護者会主催) |
| | | 10日 | 園外保育(3・4歳児:おおち谷公園、5歳児:久松公園二の丸登山) |
| | | 16日 | キッズサッカー教室 |
| | | 21日 | 私立保育園保護者会連合行事(出合いの森) |



子ども家庭支援センター 希望館

相談機関としての現状

所長 田村 勲

平成十一年十一月一日に児童福祉施設附設機関として開設した当センターも、早や八年が経過しました。

この間、地域に密着した相談機関として着実にその機能を果たしてきました。

今日では、一年間に実件数四百件(延件数八百件)以上の相談を受けており、この件数は一応定着したと思っております。また、これ以上の件数になると、今の三人のスタッフ体制では難しくなるだろうと判断しております。

相談内容については多様であります。年々一回限りの面接や相談よりも、何回か継続して対応すべき相談が増えてきております。現在、二名の職員で十数名の親子に継続してカウンセリングや心理治療という方法で支援を行っております。

長期の場合には、二年を超える事例もあります。根気強く支援を続けております。

相談内容については、性格・不登校・虐待事例が多いです。これらは初めは学校・幼稚園・保育所・各市町村役場からの相談と保護者や児童本人からの相談が

多いのですが、相談受理とその後の対応の結果、保護者の希望により親と子にそれぞれ支援していくという流れになる事例が増えてきております。

このような長期にわたる支援については、児童家庭支援センターとしての機能のひとつとして、児童相談所からの委託を受けて保護者や子どもに対応していく活動があります。このような方たちでの活動も、今年までに県内の三児童相談所から五事例を受託しており、現在もまだ保護者へのカウンセリングを続けている事例があります。

中でも、被虐待児の事例では、児童が児童福祉施設で生活をしている間に保護者との契約によりカウンセリングを行い、親子再統合をはかる活動の一分野として機能を果たしてきております。

児童相談所との密接な連携のもとに、根気よくこのような活動を続けていくことにはまだまだ多くの困難がありますが、日々の地道な支援活動を続けていくことも当センターの重要な役割であります。

他にも当センターとして、地域社会への啓発・学習活動といった方法で、県内の各市町村や各児童福祉施設・団体に協力しております。しかし、相談機関としての最も大切な使命は、現実的な家族や親と子の悩みを傾聴し、ともに歩んでいくという、傍からの実践活動であることと判断しております。

自立援助ホーム 鳥取フレンド

寮長 山中友子

今年度は、男女各一名ずつの入所があり、四月に退所者が一名ありました。その後、一時保護を経て入所した一名を加え、予備の部屋を使用して、現在、男女七名が鳥取フレンドで生活しています。

中学校を卒業してすぐ、ここでの生活を選択した子にとっては、高校生になっている同級生を見ると、複雑な思いだろうと察します。外見は背伸びして、でも中身は十五から十六歳。社会人として、職場でもフレンドの共同生活の中でも、ままれながら生活をしています。

職場では即戦力を求められる所も多いので、要求はどんどんされるし、「もう行きたくない」と思っても、学校のようになんか休むこともできません。生活費を払って、携帯電話の使用料を払って、こづかいもいるし、と考えると、仕事をしなければならぬことは、よくわかっているのに、逆に「なんで自分は働かんといいんや」と投げ出したくなることもあります。頭ではわかっているけど、自分の状況を本当の意味で理解し、行動に移していく事の大変さを、身をもって感じていることでしょう。でも、彼らはよく

頑張っています。この経験は必ず実るから」と伝え、信じて応援するばかりです。

今までを振り返って

児童指導員 内藤 直人

昨年四月にフレンドに配属になりました内藤といいます。

今回、山中寮長から学園だよりの原稿の一部を書くように言われ、良い機会なので今までフレンドで働いて感じたことを振り返って文章にしたいと思えます。

フレンドで働いて一番に感じていることは、子どもたちを自立させるのは難しいな、ということ。子どもたちが自立するには、朝ごうや自分で起きるから、職場の上司や先輩や先輩から、職場の上司や先輩や先輩から、まで幅広いジャンルのことを学ばなければなりません。それは一般の家庭の子どもと比べて早くに学ばされているように感じます。

また自立に向けて親ごとのように折り合いをつけるかということは大きな課題になってくると感じます。

そんな中で子どもたちの年齢や状況にあわせて、子どもたちごとのように接していくか、何を伝えるべきなのか、正直なところよくわかりません。ただ、子どもたちや山中夫妻に学びながら、職員としてだけでなく一人の大人として、

子どもたちと共に自立していければよい
なと感じています。

自立援助ホーム 倉吉スマイル

寮長 田村 崇

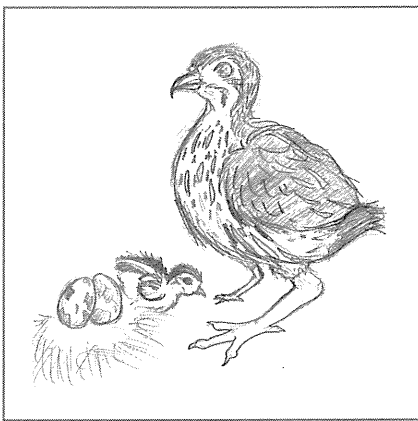
自立援助ホーム倉吉スマイルは、今年で三年目を迎えました。現在は、十六歳から十八歳の男の子ばかり四人で生活しております。この子どもたちは、さまざまな理由によってここへやってきて生活をしています。それぞれ抱えている問題も違います。考え方も、これまで育った環境も違います。それでも縁あってスマイルにやってきて出会って、ここでこれからの将来のことを考えながら、共同生活をしています。

時には価値観の違いなどから、ぶつかり合うことがあります。当たり前のことだと思えます。そしてこの衝突は、新しい子がスマイルへ来て数カ月後によく起きます。断言はできませんが、これまでいろいろなることを自分自身の中に押し込めながらそれを噴出する場所もなく、生きてきた子どもたちが、「ここへ来て「自分自身をもっと出してもいいんだ」

と思える瞬間をむかえているんじゃないかと、私は思っています。その時々職員も子どもたちにとっても大変ですが、逆にとっても大切な瞬間です。自身、相手、職員がお互いに向き合うことができることも重要な瞬間だと思っています。

自分がいる、相手もいる、その周りの人もいる。みんな一人ひとりが大切に尊重されなければいけないんだということ。スマイルという小さな社会の中で学ぶことができる絶好のチャンス。これを私は見逃さず、しっかりと向き合います。そして暖かく長い目で見守っていくことをやっていかなければならないと思っています。

今年「生と死、命」ということについて子どもたちが考え体験する出来事が二つありました。ひとつは、七月にアパー



ト自立を始めた倉吉スマイルO・BのT君が、九月に不慮の事故に遭い、十九歳の若さで他界しました。子どもたちは自分の意思で、彼との別れに最後まで付き合い、身近な友の死と向き合いました。もうひとつは、昨年の秋からスマイルで、鶉を三羽飼っています。鶉はなかなか卵を温めて孵化させないので知られています。寮生の一人が興味を持って、人

ボランティアさんあいがっつ!

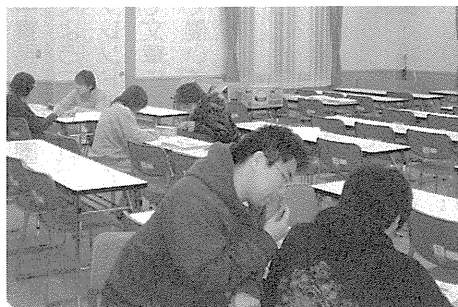
学園にはたくさんボランティアの方に来てくださっています。今回は「学習会ボランティア」のみなさんの活動を紹介させていただきます。

毎週月曜日と木曜日の午後七時〜八時まで、中学生を対象にした学習会を行っています。学習をサポートするのは、鳥取大学の学生を中心としたボランティアで、できる限り一対一の対応で中学生の学習をサポートしています。担当制を設けず、毎回違うボランティアが中学生と関わることで、また、私達もいろいろな子どもたちとの交流を楽しみながら活動しています。学習に熱心な子、なかなか取り組めない子と、いろいろな中学生が

工孵化に取り組み、見事成功しました。今三羽のヒナが元気に生きています。この二つの出来事で、「生と死、命」についてとても大切なことを我々は心に刻むことができたと思っています。最後に、K君、安らかに眠りください。私たちはいつまでもあなたのことを忘れません。

倉吉スマイル一同

一人一人にあった学習方法を見つけていくことが、私達の楽しみでもあります。今までできなかった問題ができるようになつたときには、子どもと一緒に喜び、それが私達のやる気にもつながっています。最近では、クリスマス祝会への参加により、学習会のアピールも積極的にを行っています。来年の1月からは、小学三・四年生を対象とした小学生学習会も開始する予定です。



中学生学習会ボランティア 西谷 彰大

当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、
後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は
下記のとおりです。

心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (2007. 6. 1~11. 30)

(敬称略)

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
KMTコーポレーション 代表者 阪田 利一	川 端 勇 次	杉 村 英 子	鳥取ライオンズクラブ 会長 佐々木 豊
PCサービス鳥取 西 田 淳	菊 池 ト シ	砂 川 晋 治	戸 村 誠
秋 崎 る り子	岸 律 子	隅 田 康 子	豊 福 孝 明
浅井慶紀・富美子	岸 根 功	勢 木 宇 太 郎	中 尾 文 裕
朝 倉 通 憲	岸 本 延 子	綜合印刷出版(株)	中 辻 裕 司
五百川 孟	岸 本 正 枝	ダイヤモンド電器(株)	中 本 久 美 子
池内ふとん店	北 中 洋 子	第一保育短期大学	名 村 康 恵
池 田 晴 隆	きむら耳鼻咽喉科医院	大 源 夏 美	西 尾 美 智 子
井 坂 靖 令	蔵 本 美 知 子	竹 田 義 男・江海子	西 尾 琉 璃 子
石 田 文 三	久 野 芳 治・一 裕	竹 本 薫 子	延 廣 隆 範
伊 谷 周 一	小 島 和 香 奈	竹 本 伸 子	萩 原 医 院
石 田 稔	小 谷 寿 子	武 安 美 和 子	花 木 正 史
市谷経哉・成子	小 谷 怜 子	田 中 儀 衛	林 敬 二 郎
井 上 恭 子	近 藤 明 彦	田 中 耕 自	林 義 雄
入 江 一 枝	齋 藤 明 彦	谷 口 繁	パルス電工(株) 代表取締役 清水 守
岩 田 弘 美	齋 藤 光 実	谷 口 博 文	東 邦 子
岩 田 美 代 子	齋 藤 皓 彦	タニグチヘアサロン 谷 口 敏 明	日立金属(株)鳥取工場
内 海 敏	坂 井 芙 美 子	谷 本 正 道	平 野 正 子
梅 里 伸 正	貞 光 由 紀 江	玉 木 敏 久	広 岡 智 子
梅 澤 潤 一	澤 田 孝 義	田 村 明 子	福 士 久 美 子
海老原光瑳子	山陰酸素工業(株) 鳥取支店	束 原 克 美	福 島 庸 二
奥 羽 徳 行	塩 澤 洋 子	土 江 浜 代	福 田 源 次 郎
大雲院地藏盆子供夜店	柴 田 和 仁	戸 田 倫 弘	福 永 裕 子・とみ子
大 谷 恭 一	柴 田 直 樹	鳥取いなば ライオネスクラブ	本 城 具 子
太 田 法 律 事 務 所 志	柴 田 尚 美	鳥取教会・愛真幼稚園 合同パザ	堀 内 苑 生
岡 田 レ ミ	柴 田 満・妙 子	鳥取教会シオン会	松 岡 京 子
片 山 正 見	霜 田 稔	鳥取県運動用具協同 組合理事長 尾坂真人	松 谷 ポ ン プ (株)
叶 原 土 筆	白 井 道 子	鳥取市母子生活 支援施設 つくし	松 永 隆 夫
川 上 広 枝	信 和 教 会	鳥取市立若草学園	松 橋 秀 之
川 口 孝 一	自然を守るみどりの会 高野	鳥取鶏卵販売(株) 代表取締役 小野寺裕	松 原 奈 穂 佳・宗 孝
河 田 瑛 子	杉 浦 功	鳥取南更生保護女性会 福本未子	松 本 勲

氏名	氏名	氏名	氏名
三上晃	山口登貴子	湯村正仁	脇本雄一郎
三木康二	山田金庫店	横浜小児科・内科医院	涌島喜久子
盛田和子	山根一昭	吉岡智子	(株)岩田兼商店
森田悟	山本博	吉田由美子	(株)コタニ
森山一寿	(有)因幡安田 ひまわり保険	米谷健	(株)清水代表取締役社長 清水昭允
安田法律事務所 安本良栄	(有)山陰予防医学研究所 (有)田中鉄工所 代表取締役 田中敏明	米本哲人 ラウンジノア 西村まゆみ	(株)鳥取朝日広告社 (株)ニシオ

物品寄付者 (2007.6.1~11.30)

(敬称略)

氏名	氏名	氏名	氏名
青木美奈子	山陰合同銀行	鳥取更生保護女性会	前田和子
足立俊	シャドール	鳥取鮮魚仲買人組合	ヤマネ機材 山根茂
飯島由美子	清水隆夫	鳥取ライオネスクラブ	山根一昭
石原玲子	高田紀子	鳥取市学校給食会	山本伸子
今井書店	竹本みずほ	長井修	吉成寺
大雲院地藏盆子供夜店	大樹寺	西村一秋	若草学園
海藤ひろみ	鳥取教会	ぱにーに	涌島喜久子
海陽亭	とっとりキルトクラブ	ひつじの会	
沢田陽子	鳥取県支部新聞 公正取引協議会	福田光明	

●「鳥取子ども学園後援会」加入と会費納入のお願い●

鳥取子ども学園の事業は、言うまでもなく「民間社会福祉事業」です。「制度」も何も無いところから出発した創立当初の困難を想い、民間社会福祉事業の先駆性・献身性を受け継ぎたいと思います。公的な制度と資金だけでは到底足りません。

「鳥取子ども学園後援会」への加入と会費納入にご協力をお願い致します。

1. 「鳥取子ども学園後援会」へご入会下さい。
2. 地域、職域でできるだけ友人、知人への呼びかけをお願いします。
3. 個人でも団体でも、会社や法人でも加入できます。
4. 年会費は、個人1口3,000円、団体・法人1口10,000円で、1口以上何口でも結構です。

会費・寄付金は下記へお願いします

鳥取子ども学園後援会事務局：〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取子ども学園内

☎ (0857) 22-4206・21-9551 FAX23-0242

振込み口座名義：社会福祉法人鳥取子ども学園 理事長 尾崎淑子

振込口座：郵便振替 01490-9-9106 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3422812
鳥取銀行本店 普通 7645611

お願い

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考えてのことですので、ご理解いただけますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。